

会議結果の公表

附属機関等の名称	沖縄県立図書館協議会
日時	平成30年2月27日(火) 10:00~12:00
場所	沖縄県立図書館3階研修室
出席委員名	(8名) ①望月道浩会長、②豊見山恵美子副会長、③安里恒男委員、 ④平井りい子委員⑤金城由美子委員、⑥田中洋人委員、 ⑦友利清和委員、⑧呉屋美奈子委員
議題及び報告事項	2館長あいさつ及び委嘱状交付式 ・会長、副会長の選任 ・会長挨拶 3. 議事(報告事項) ①平成29年度県立図書館の運営状況 ②平成30年度県立図書館の予算(案)の概要 ③県立図書館評価指標(案)について ④県立図書館の休館について ⑤新館「図書館イメージキャラクター」について 4委員の皆様から図書館へのご提言 5閉会
議事の概要	報告事項に対する質疑応答を行った。 委員からの質疑及び提言は議事録のとおり。
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
所管課等	沖縄県立図書館
問い合わせ先	総務班 担当 大城・亀島 電話 098-834-1218
備考	

平成 29 年度第 2 回沖縄県立図書館協議会 議事録

日 時 : 平成 30 年 2 月 27 日 (火) 10:00-12:00

場 所 : 沖縄県立図書館 3 階 研修室

出席者 : 8 名 ①望月道浩会長、②豊見山恵美子副会長、③安里恒男委員、
④平井りい子委員⑤金城由美子委員、⑥田中洋人委員、
⑦友利清和委員、⑧呉屋美奈子委員

傍聴者 : なし

次第

- 1 開 会
- 2 館長あいさつ
- 3 議 事
- 4 委員の皆様から図書館へのご提言等
- 5 閉 会

〈議事内容〉

望月会長の進行により下記の 5 つの議事について事務局の説明及び委員からの質疑応答を行った。議事における発言要旨は以下のとおり。

〈議事①平成 29 年度県立図書館の運営状況について、議事②平成 30 年度県立図書館の予算(案)の概要について〉

〈事務局より議題①②について説明〉

委員

議事①の「平成 29 年度県立図書館の利用状況」につきまして、1 月末の速報値となっているが、平成 28 年度は 1 年分で平成 29 年度は 1 月までの速報値と見て良いですか。

事務局

両年度とも 1 月末で揃えています。

委員

議事②の課題解決支援充実事業や郷土資料劣化度調査事業について、次年度予算が 0 円となっているが、本来の図書館の機能である事業だと思います。例えば、1955 以前の資料は、県立図書館に保存されていて、全国各地から、資料を求めてくる方もいると思います。今後、県立図書館が継続していく上で資料保存はすごく重要な役割だと思います。資料保存を計画的に進めていく中で、その事業費が 0 円ということは、いけないと思います。もう 1 つ課題解決支援事業も重要な事業だと思いますが、予算がついてないということなので、もう少し詳しく聞かせてください。

事務局

まず、郷土資料劣化度調査事業についてですが、終戦直後から約10年間は沖縄県内の方では紙の質もかなり良くありませんでした。さらに紙を留めるためのホッチキスが錆びてしまって、それが紙へ影響を与えています。

そのため、修復が必要な程度ごとの冊数を洗い出し修繕にどのくらいの期間がかかるのかなど、劣化度の状態をカルテ化し、修繕計画を作成して修繕費用の経費を算定するため、平成28年度から平成29年度の2年間限定で実施した事業です。

委員

今後は、その劣化度調査データを元にして、予算の折衝をしていくということですか。

事務局

劣化度調査の事業は終了しますが、改めて必要性があれば修繕、修復事業を計画していくことになります。

安里委員

沖縄県立図書館の特色として、引き続き力を注いで貰いたいと思います。

事務局

課題解決支援充実事業の質問がありましたが、これについては、図書館の重要な役割と理解はしています。その点も踏まえて予算要求をし、財政当局に説明をしてきました。沖縄振興推進交付金事業であり、休館する場合でも、事業実施は可能との説明をしましたが、理解が得られず0円という結果になりました。今後も図書館にとって重要な事業でもありますので、次年度以降も頑張って予算獲得に取り組んでいきます。

委員

運営状況の報告と予算の概要の事業名が一致しません。例えば、「課題解決」とかは明確ですが、「英語でおはなしかい」等の事業費が、どの事業からの支出なのかが、分からないので少し教えて欲しいです。もう一つは、主な事業の中で、休館中の事業はどうなるのか、教えて欲しいです。

事務局

「英語でおはなし会」ですが、コストは、あまり掛かっていません。例えば、「しまくとぅば」だと沖縄県文化協会の方とタイアップして、沖縄県文化協会の方が講師料を支出して、講師を派遣しています。県立図書館は、参加する子ども達を集めるということを行っています。児童英語研究会も研究会の一つの研究として図書館を使用しています。第二木曜に行っている「世界の絵本読み聞かせ」は、交流推進課の事業の一つになっていますので、コストはかかっていません。事業費を取って予算を作ってやっているわけではなく、それぞれの事業をこちらの会場で行う形でタイアップをして行っています。休館後は、「世界の絵本読み聞かせ会」は4月までは開催します。5月から11月までは県立図書館が窓口となって、他の図書館で開催出来ないか、市町村図書館に希望調査を行って、各図書館で毎月、開催する計画となっています。また、児童英語研究会は、県立図書館近辺の保育園に訪問をして休館中（4月から11月まで）は開催する計画もあります。また、「しまくとぅば」に関しては文化協会の方で別の形で事業として、継続するという事になっています。新館開館後は、図書館で継続して行いたいと要望があります。

委員

すばらしいサービスなので、休館中も県民に提供できることは、大変ありがたく思います。

委員

今年は新館が出来るということで、545.6%の大きな金額が計上されておりますが、今後は、これが続くとは思えないですが、どのくらいの予算になりますか。

12月に「ハワイ沖縄捕虜体験者証言トーク」に参加しました。とても良くて、今後も引き続きいろんな方を招いてのイベントをやって頂き、県外や海外から来るお客さんなんかも呼べるようなイベントも多くやって貰いたいと思います。この取組はとても良かったと思います。どの部分がどの予算なのか分かりませんが、このようなイベントの予算取りもして行けたら、スムーズにイベントも行えると思います。

事務局

31年度以降の予算の見通しということのお話ですが、現時点では、いくらということは申し上げられませんが、委員の方からお話があったとおり新たな事業立てをしながら、予算措置を行っていくべきだと思っています。今回は30年度の旧館と新館の両館の予算を措置しておりますが、31年度は新館の予算になっていきますので、新館の管理費用等を31年度も継続して支出していくこととなります。さらに図書館システムも新しくなりますので、その図書館システムに係る費用を継続して支出していくこととなります。あとは現館と同じような費用を計上していくこととなります。

委員

ちなみに県立図書館の跡地利用はどうなりますか。

事務局

閉館後の跡地利用については、具体的にはまだ決まっていません。今後の利用については、移転後に検討していくことになると思います。

委員

この後の運営等に関して気になる点ではありますが、例えば、予算の中の図書館管理費の負担金の中にビル管理費や修繕積立金が計上されていると思いますが、修繕積立金の今後の見通しは、どうなっていますか。新館の建物への入居率に照らして、修繕積立金の今後の見通しはどのように立てられているのか（10年見通し等で修繕積立金の計画は立てられていると思いますが）

事務局

新館の修繕料ですが、具体的な数字はまだ調整中です。新館は複合ビルに入るので、入居団体が加入する管理組合に加入する予定です。現時点では延べ床面積に応じて管理費を決めていくとの情報が入っていますが、具体的にはまだ決まっておりません。次年度は7ヶ月分ということで概ね200万前後計上しております。31年度以降は年間分になりますので、1.3倍分くらい高くなる予定です。

委員

次の新しい建物の中には、ほぼ100%入居する予定での計上ですか。

事務局

そうです。一部はまだ空いているスペースがあると聞いていますが、ほとんど埋まってきていると聞いております。

委員

平成29年度の主な事業についての中に衛生委員会を開催しているとあります。いろんな分野での仕事があり、また新しい図書館の移転に向けて多くの作業があると思います。健康でないと（職員が元気でないと）移転に向けてスムーズな業務が出来ないと思いますので、昨年度から産業医の先生を含めて7人の委員で委員会を設置しているということで、今後とも充実した衛生委員会も開催するようによろしくをお願いします。もう一点は、「南風原でのや～なれ～フェスタ」の参加ということでしたが、県の社会教育支援の大きな事業として「や～なれ～運動」を行っていますが、図書館との関わりはどのようになっているか教えて欲しい。

事務局

「や～なれ～フェスタ」は県生涯学習振興課が主催して行っている事業ですが、「たいようのえくぼ」という団体が係わっていて、その団体と協力して絵本の読み聞かせコーナーをつくりました。や～なれ～運動との関わりについては木曜日に絵本の読み聞かせが終わったあと、11時から12時まで那覇教育事務所の家庭教育支援員と担当職員が来館し、学び合いプログラムを開催しています。宮古地区などは宮古教育事務所を拠点にして、学び合いプログラムを開催していますが、那覇地区は拠点がないということで、「ぜひ、県立図書館に協力できませんか」と依頼があり、話し合いを進めて、11月から県立図書館内の読書推進室を拠点として、学び合いプログラムに関わっております。

委員

読書推進の場合も図書館でということもあるので、今やっている事業の中に組み込んでいくことはいいことだと思います。ありがとうございました。

〈議事③沖縄県立図書館の評価指標について〉

〈事務局より議事③について説明〉

委員

課題解決型図書館の説明を頂きましたが、これと予算の方の課題解決支援充実事業と関連していますか。もし、関連しているのであれば、予算は来年度は含まれていませんので、実績として数値が上がっているのですが、どなたかに負担が掛かかると思いました。もし関係ないのであれば、この数値は考えられますが、この辺はどうなっていますか。

事務局

予算として組まれていた事業はビジネスに関連する事業でしたので、評価指標とは関連はしておりません。

委員

蔵書冊数の増加冊数については、予算の説明の中で資料購入費の減少額と照らしても妥当な増加割合という考え方でよろしいでしょうか。

事務局

蔵書冊数の中には寄贈資料も含まれていますので、寄贈資料に関しては予算はあまり関係ないと考えております。

事務局

今までは3%増で見込んでいたのが2%増になっているので、ご質問されたと思いますが、これについては、予算の増減を含めて判断した数値ということで理解して頂きたいと思います。さきほどの話もありますが、購入だけではなく寄贈も随時受付をしていますので、これらを含めて2%増を見込んでいるところでございます。

委員

質問の意図としましては、目標値等の資料を事前に頂いていたので単純に過去の実績に基づいて、それで月で割って平成30年度については2%の増加を見越して、予算案のところは、存じ上げていなかったもので、資料購入費が削られていく中で2%増という数字を掲げた時に達成できない状況があるのではないかと心配でしたので質問をしております。

委員

限られたメンバー（職員）で、フル回転をしている状況は、本当に頭の下がる思いです。目標値と達成状況というのが何か基準になるのがあれば良いと思います。例えば、リニューアルして新しい場所に移転すると思いますが、これまでは平成23年度から現在のような形で目標値と達成状況を行っていると思いますが、移転した時に、現在の指標でいいのだろうか。例えば、課題解決型図書館の指標で館外のサービスの部分と館内のイベントの中で評価をしていくと思います。移転してリニューアルした時に同じような指標で平成30年度、31年度と評価しますが、指標の見直し改善があるのかどうか、今回は2年スパンで評価を行うと思います。ただ、危惧するのが、例えば、県教育庁の生涯学習振興課は知の拠点ということで、施設整備事業で進めております。まちづくりという観点で、旭町の周辺のまちづくりにどう組み込んでいくかというところで、それぞれの考えで推進していく中で当然、図書館も推進していくと思います。どのような形で今後の指標を作成するのかが問題です。すごく頑張っているのですが、認められる指標に作り替えるべきだと思いますがどうでしょうか。

事務局

貴重なご提言だと思います。今回提案しているのは、平成30年度と31年度の暫定的な評価指標となっております。さきほども説明したとおり、来年度は休館し、12月に開館して実際に新館のオープン期間は3ヶ月くらいです。翌年度も開館しますが、どのような指標を設定したらいいのか、まだ見えておりません。指標については、現在の図書館と移転する図書館は環境等も違いますので、それに伴って、対外的な連携や事業等を指標として入れ込むことが出来るのかどうかを含めて、今後、検討していきたいと考えております。

委員

いろんな指標が出ている中で、指標を作成する時に目標を達成するための活動を入れ込む必要があると思います。自分も海外の現場で指標作成を行っていましたが、指標を増やすのはいいですが、実現する為には下の部分が、かなり重要です。特に今年は新館に移転する中で、来館者数や貸出冊数等は、休館があるので、減少していきます。開館後に現状に戻すには、かなりの努力やいろんな活動をしていかないといけないと思います。原状回復する際に単なる広報だけではなく、色んな形の事業を考えたらいい

と思います。図書館協議会委員の皆様から、いろんな案を提案してもらった方がいいと感じますがいかがでしょうか。

委員

少し議論が広がっている気がしますが、今回はこの目標値の状況を各委員の方に確認して頂きたいとの趣旨です。事務局から具体的に説明して頂いてもらってからの方が良かったかもしれませんが、基本的にはこの目標値が、当初は新館に合わせて改定作業を進める議論もありましたが、新しい指標作成する作業的な部分で、新館の施設規模など未定であったところもあり、間に合わないということもあったと記憶しています。その為、現状の図書館の指標をそのまま流用する形で新館に移転してからの2年間くらいは、この指標に基づいて、進めていき、その中で、田中委員の方からご指摘があったような課題点も出てくると思います。その点についても図書館協議会の方で審議するのかどうか議論が必要になってくると思いますが、そのような理解でよろしいでしょうか。もし補足があれば、事務局の方からお願いします。

事務局

田中委員からもお話があったように今後、新たな指標を含めて活動指標もまた設定が必要になるかもしれませんが、そういったことも含めて、新しい指標については今後、図書館協議会委員の皆様の意見を伺いながら検討していきたいと考えているところであります。今回の確認というのは、移転等もございまして、本来であれば、平成30年度から新しい指標を活用した評価になるべき所ではありますが、時期的な問題もございまして、平成30・31年度は従来の指標を使いながら図書館運営の活動状況も評価していきたい。そういったことも承認していただきたいとの趣旨でございます。

〈議事④県立図書館の休館について〉

〈事務局より議事④について説明〉

休館については質疑なし

〈議事⑤新館「県立図書館イメージキャラクター」について〉

〈事務局より議事⑤について説明〉

委員

委員の皆様には、何か質疑等がありますのでしょうか。

委員

イメージキャラクターについては平成31年度に実施、検討して頂くということでご了承して頂いたということでよろしいでしょうか。

全委員

異議なし

委員

委員の皆様からその他、ご意見がありましたら、お願いいたします。

委員

今日もありがとうございました。新しい指標を作成していく上で、不易と流行があると思いますが、現在は新しい事業で、いろいろな補助金が入ってくると思いますが、ある程度軌道に乗ったら、予算は来ないと思いますが、それから勝負だと思いますので、そういう意味でも、この指標をどう作っていくのが、すごく重要になってくると思います。教育庁と生涯学習振興課が作成した、「沖縄振興の知の拠点」という資料を前に頂きましたが、この中でも「伝統と新しさが融合」があり、その中で見ていくと、「人材育成」というのが表紙の1番上になっています。個人的には知の拠点の1番のポイントは人材育成だと思っています。沖縄県立図書館が担うのは、郷土資料ですね。沖縄県にしかない資料、それをデータベース化するか、あるいはまた実物をしっかり保管をしていくことは希少価値が高いと思います。その辺の所を各関係機関の皆さんがたぶん一堂に会して、いろんな会議をしていく場面があると思いますが、どのまちづくりの方もあるいは知の拠点の事業の方も、様々な方々が来たときに1番に中心据えて欲しいのがやはり人材育成の部分で、それはどの関係機関も重要だよねというのを確認をしながら、指標を作ってくところ、ぜひお願いをしたいと思います。

委員

新しい図書館になるということで、県民の皆さんも期待していると思いますが、自分が思ったのは、大英図書館の視察の報告会をさせて頂いたのですが、新しい図書館なので、新しい取り組みをどんどんやってもらって、県だけじゃなくて、世界に広がるような図書館になっていただけるような活動で、新しい視点をもった取り組み、こう言ったら何なんですけど、お金儲けができるように、物販したり、そういったことも、いろんなイベント事業も企画実施したりして、立地が良いわけですから、世界中から来るので、そういったことを考えながら、新しい発想をもって、やっていただけたらな一とすごく思います。そういった地域にあるし、そういった環境にありますので、やっていただけたらと思います。

委員

委員の方からの提言があった点については、次年度に向けて改善をいただけたらと思っております。これもちまして、協議会を終了いたします。ご協力どうもありがとうございました。